

福井支部ニュース

2024年度 第8号

日本科学者会議福井支部

連絡先: 山本雅彦、masahiko@mbp.nifty.com

郵便振込口座番号 00710-9-17967 日本科学者会議福井支部

支部ホームページ <https://jsafukui.net/>

科学者会議本部 <http://www.jsa.gr.jp/>

今号の内容

- ◆報告 2024年度 JSA 福井支部第6回幹事会の概要 (山根 清志)
- ◆近況報告 『語り継ぐ私たちの東京教育大学』第2号を読んで (森 透)
- ◆土竜書評 『原発と司法』樋口英明 岩波ブックレット (土竜 百聞)

[報告] 2024年度 JSA 福井支部第6回幹事会の概要

2025年2月3日(月)の夕刻、JSA 福井支部の第6回幹事会がオンライン方式で開催された。予定されたほぼ18時から、山本富士夫福井支部代表幹事の開会挨拶の後、山本雅彦事務局長の司会で議題(案)にそって議事は進められた。

1、北陸地区事務局長会議(2025/1/27)と北陸地区シンポについて

JSA60期(2024年度)第2回北陸地区会議議事録により、北陸地区事務局長会議(2025/1/27)の内容を確認。

同時にそこに示されている北陸シンポに係る部分を取り出し確認。

- ・主管は、石川支部が担当。
- ・開催日は、2025年4月26日(土)の午後。

・開催形式は、ハイブリッドとして、近江町交流プラザ4階で、同時にZoomにより配信する。

●メインテーマ:

能登復興への展望と課題—能登半島地震と豪雨災害から見えてきたもの—(仮)

●報告者

石川支部から

特別講演: 武田公子氏(非会員)「題目(未定)」

一般講演: 井上英夫氏(非会員)「題目(未定)」

富山支部から

安江健一氏(非会員)

講演テーマ: 奥能登で発生した地震と豪雨に伴う地形変化と生活への影響

福井支部から

藤野間幸英氏(会員)「題目(未定)」

2、第56回大会議案書(案)について

大会議案書(案)への加筆・修正意見を2月までに事務局へ提出。

3、第40回原発全国シンポジウム2025について

今年は、8月に京都で開催される予定。

4、JSAの『日本の科学者』の配布とJSAの会費徴収について

第60期第3回幹事会(2024年12月15日)の会議報告にもとづき、山本富士夫代表幹事より説明あり。

5、支部例会

山本雅彦事務局より、島崎邦彦氏の著書、樋口英明氏の映画、大学問題等、未だ積み残しのテーマのあることへの言及あり。

その一方で、新会員の申東愛氏の、ハーバード大の福島原発事故調査に同行した報告を、3月下旬ぐらいに予定したい旨の提案がなされた。

6、『福井の科学者』&『日本の科学者』

(1)『福井の科学者』…高木秀男編集長

『福井の科学者』141号は、2025年1月25日に発行を見た。

(2)『日本の科学者』…

北陸シンポ(2024年)の特集論文(執筆者:小林昭三氏、新村昌治氏、北野進氏)を山本富士夫氏の客員編集委員担当で『日本の科学者』(2025年2月10日発行)の3月号に掲載される。

すでに印刷・製本に回っていて、1週間後には出るはずだとのこと。

7、支部ニュース

小倉久和幹事の尽力により、第6号と第7号が発行されている。

小倉氏によれば、次号は、今のところ原稿が森会員の短文以外にないのでいつ出せるかわからないとのこと。

原稿が出てくるためには、会員相互の交流の場が必要でないか、新型コロナが収まったわけだから、支部例会等、対面でやる機会をどんどん増やすべきでないか等々の意見が出された。

8、会計と会員拡大について

伊藤勇幹事より、○会計状況報告、○現在高、○会費納入状況、○会員拡大、○分担金拠出に係る今後の予定等に関して報告がなされた。

9、第55回JSA福井支部総会議案書について

総会の期日は5月10日(土)、場所は未定。

昨年議案書を参考にして今年の議案書を作成する。

議案書原稿の提出期限は4月10日と決まった。

10、2月のイベントについて

全国の方から来ている、各種イベント案内についての紹介。

11、その他、身近な各種たたかいについての伝達

・オール福井反原発連絡会が福井県議会へ提出を予定している「関西電力のロードマップの見直し拙速に受け入れず、県民の声を聞いて判断するよう求める陳情書(案)」

・「3.22~23日 若狭一斉チラシ配布 老朽原発うごかすな! 実行委」

・「3.31 使用済み燃料の行き場はないぞ 関電は約束まもれ! 美浜集会」

3月31日(月)13時集会後、町内デモ 関電原子力事業本部前

・戦後80年 大軍拡・憲法破壊を許さず 平和な世界と日本へ

「建国記念の日」反対! 2・11福井県集会

・3・11メモリアルアクション 原発のない新しい福井へ

最後に山本富士夫代表幹事の閉会挨拶があって、20:07ごろ福井支部第6回幹事会は終了した。参加幹事は10名であった。

(山根清志)

支部ニュースへの寄稿・投稿を

支部ニュースを支部会員間の交流の場とするため、積極的な寄稿・投稿をお願いします。

◆ジャーナル評論:「日本の科学者」「福井の科学者」の評論

◆時事評論、意見・見解

◆活動報告・経験報告・事例紹介

◆行事案内、会員への案内・お知らせ

その他、エッセー、書評、文芸作品の紹介など、何でも支部ニュース担当者までメールでお送り下さい。yamane@f-edu.u-fukui.ac.jp
ogura@u-fukui.ac.jp

2025年前期の会費納入をお願いします

2025年前期の会費納入をお願いします。また、過去の未納会費のある方は、分納でも構いませんので、至急納入をお願いします。

[近況報告]『語り継ぐ私たちの東京教育大学』第2号を読んで

以前、支部ニュースに私の出身大学の東京教育大学の闘争記録について書いたことがあります。このたび、2024年12月末に『語り継ぐ私たちの東京教育大学』第2号（2025年1月）が送られてきましたので、今回はこれについて書きたいと思います。第2号には私も原稿を書いています。創刊号は2023年1月発行で、先輩方が教育大闘争を真剣に闘った足跡に感銘し、私も第2号には是非書きたいと希望しました。昨年9月に原稿を送り、ようやく年末に第2号が送られてきました。全136頁・B5版の冊子です。私のタイトルは「教育大闘争の省察と現在」で、1970年4月入学の私の当時の闘いと現在の状況を報告しています。うたごえ合唱団「あらぐさ」に入部し、その活動の中で、ベトナム戦争反対、沖縄返還、安保条約反対など、当時の緊迫した政治課題に真剣に向き合った経験を書いています。入学同期のメンバーは、それぞれの人生選択をしましたが、自治会活動に没頭した仲間も多く、彼等も原稿を寄せています。

第2号の巻頭には、家永三郎先生「閉学を考える集い」記念講演（1978年3月26日・日本教育会館）が収録されています。編集者によると偶然にも、録音テープが保存されていて、テープ起こしをして収録できたとのことでした。家永先生は当然、筑波移転に反対していましたが、日本の大学の自治・学問の自由の歴史について詳しく講演されました。私も筑波移転に反対していましたが、この閉学集会には参加していなかったと思います。学部4年間と修士課程2年間は東京教育大の教育学専攻の学生でしたが、博士課程は閉学のため進学することができず、いろいろと考えたあげく、筑波大学の5年制博士課程の3年次に編入することにしました。教育大の筑波大学移転は、文学部は反対、理学部は賛成、教育学部は条件付き賛成、ということで、私が所属する教育学部の先生方は、誠実な

方が多く、悩みながらも条件付きで賛成したのではないかと推察されました。

ともあれ、あれから50年近くたち、改めて自身の大学闘争を省察するという機会に出会えてよかったと考えています。『東大闘争から五〇年』（2019年、花伝社）も取り寄せて読み、大変刺激を受けました。いま、『1966年早大学費闘争の記録』（2022年、花伝社）も手元にあり、これから読もうと考えています。1960年代から70年代にかけての大学闘争を闘った人々が、その後の人生選択も含めてどのように生きているのか、かれらの生きざまを考えさせられる書籍群です。

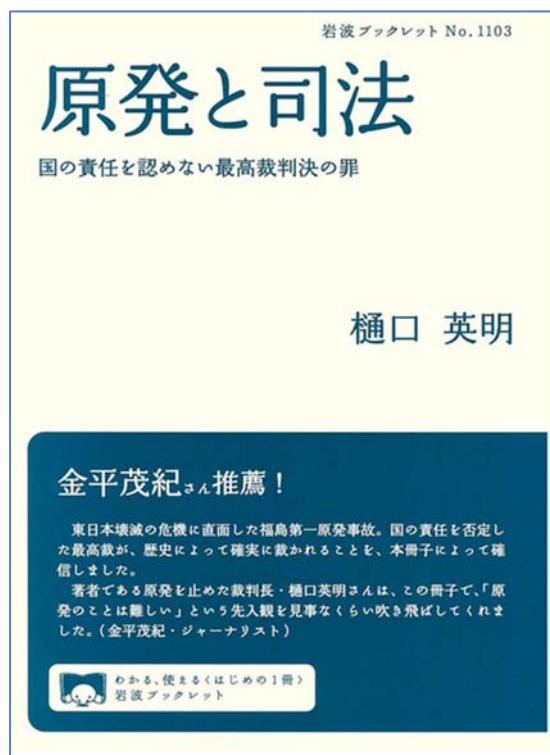
（森 透 2025/1/11 記）



著者の樋口英明氏は、福井地裁の裁判長として2014年5月に関西電力大飯原発3・4号機の運転差し止めを命じる判決を下し、その時の経験から反原発を訴えている、よく知られた方である。評者が樋口氏の原発問題に対する意見や考え方を具体的に知ったのは、『私が原発を止めた理由』¹⁾である。昨年2024年に岩波書店から出版された『原発を止めた裁判官による 保守のための原発入門』²⁾に続く本書は、これからの日本を支えていく次世代のこども・若い人たち向けの訴えである。「司法」に対する批判は非常にわかりやすく書かれていて、批判のポイントがよく理解できる。同様の日本の「司法」の問題・課題は、瀬木比呂志氏の『絶望の裁判所』³⁾

で、多くの例や課題が指摘されているし、原発問題における司法の闇は、後藤秀典氏の『東京電力の変節』⁴⁾で、原子カムラと司法のなれ合い実態が告発されている。樋口氏は、司法の担当当事者の立場から、現在の司法の問題を取り上げ、訴えられている。

本書は、「はじめに」から「おわりに」まで50ページ余りの、章立てなしの小タイトルでくられた多数の小節からなる、パンフレット並みの一氣に読める分量である。本書は氏の講



演録をもとに加筆したとあるが、「あまり原発問題や原発訴訟になじみのない方にとっての入門書」を心掛け・・・、特に、「多少のリスクはあってもエネルギー確保のために原発は必要なのでは？」とお考えの方に」読んでほしいと、「はじめに」の最後に記されている。反原発の素人論者である評者にとっては、読み応えがあった。

本文の小節タイトルを少し抜粋しよう。「2024 年 1 月の能登半島地震」、「珠洲原発」、「志賀原発」、「2007 年能登半島地震と井戸判決」、・・・、「原発の運転を止めるべき理由」、「我が国の原発の耐震性」、・・・、「2022 年 6 月 17 日最高裁判決」、・・・、「本件訴訟の争点と多数意見」、「多数意見の問題点」、「三浦反対意見」、「多数意見と三浦意見の対比」、・・・、「司法権の独立」、「裁判所が信頼を回復する唯一の方法」、「なぜ、国家賠償を求めるのか」。

コンパクトな記述の中にも、大きな問題点が判りやすく指摘されていて、感心してしまった。是非、多くの、若い人達に、読んでもらいたい。

(土竜百聞)

- 1) 『私が原発を止めた理由』 樋口英明 旬報社 2021
- 2) 『原発を止めた裁判官による 保守のための原発入門』 樋口英明 岩波書店、2024
- 3) 『絶望の裁判所』 瀬木比呂志 講談社現代新書 2014
- 4) 『東京電力の変節』 後藤秀典 旬報社 2023

《編集後記》

2024 年度支部ニュース第8号をお届けします。

2月に入っての大雪、特に北日本では過去の記録を上回る大雪で、大変でした。

米国では、トランプ大統領就任以来、米政府機関がリストラ、国連関連の機構も米国の補助金カット、全世界の国に大幅関税、「不法移民」を手錠・足かせ付きで強制送還、そして、ガザの「所有」や「リゾート化」のためにエジプトやヨルダンに補助金カットで大圧力、……。そんな中、イスラエルのネタニヤフ氏に続いて2番目に石破氏がトランプ氏と会談し、記者会見で対日関税のことを問われて「仮定の質問には答えない」のが「日本の国会の定番だ」と応え、失笑をかった。米国の大手報道機関は、ネタニヤフ氏はトップニュースで取り上げましたが、石破氏は、その他の話題のような扱いだったとか。そんな中、ニューヨークタイムズが会談前から「日本の首脳が急いでトランプに会う。そんなリスクを取る価値はあるのか？」と報じていた、という……。

(OG)